

# ハタ、大ヒラメへの専用設計 ゴウイン ネモノ

●荒根を直撃するハタ狙いでは、めまぐるしく変化する底形状の感知と、スムーズな誘いや合わせが求められるコントロール性能、大型にも根に潜れないバットパワーなどが必要。ゴウインネモノは7:3調子のパワーバランス、なおかつメタルトップ、AGS、ESS、Vジョイントαなどのテクノロジーでハタ、大ヒラメを制す。大ヒラメ狙い、ライト泳がせ青物などにも最適な1本だ。3月発売予定



▶起伏が激しい場所では操作性のよさが役立つ

◀穂先にはメタルトップとAGSを採用



アイテム	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	オモリ 負荷(号)	カーボン 含有率(%)	適合 クランプ	メーカー希望 本体価格(円)
MH-210	2.1	2	110	250	1.1/14.0	30-120	53	M	59,000
H-230	2.3	2	120	260	1.1/14.0	40-150	61	M	59,500

▶ネーム部はマハタをイメージしたブラウン、ガイドフット部のスレッドは目の色をイメージしたグリーン

## 大型にも余裕のパワーを持つ シーボーグ G200J

シーボーグ200Jをベースにさらなる耐久性を実現したG200Jはこの釣りにも最適。ハイパワー設計でハタ、大ヒラメを引き上げる。  
●ギア比5.9、自重520g、最大ドラッグ力10kg、巻糸量PE2号300m、3号200m、メーカー希望本体価格113,000円

▶福田さんは左ハンドルを使用



## 大型キャスター付きで移動も楽しく タフトランクGU4300

頑丈、堅牢、タフボディのクーラー。大型キャスターとサイドハンドル付きで持ち運びも楽しく。発売中。  
●容量43L、メーカー希望本体価格47,700円



## 電源オンオフスイッチを搭載 スーパーリチウム 12000WP

大容量リチウムイオンバッテリー。電源オンオフスイッチ、ウォッシュアップ、セーフティ機能など、安全安心の機能も搭載。発売中。  
●WP-C(充電器付き)、WP-N(充電器なし)の2種。容量12Ah、メーカー希望本体価格78,000円(Nは68,500円)



▲大型も安心な快適大ヒラメハタ仕掛SS+S

底直後に福田さんは竿を曲げた。予想に反していきなりのヒットに興奮気味。巻き上げ途中に急に軽くなる食い上げを見せるも「シーボーグG200J」のJOGパワーレバー操作で一気に入テンションを回復して浮上させる。上がったのは2キロ級のヒラメだった。ほかの乗船者にはカサゴ、アヤマカサゴ、オキメバルなどが立て続けにヒット。  
この後はしばらく沈黙が続いたが、福田さんの竿に何やら変化があった。

結局この日、福田さんはヒラメ1枚に終わってしまったが、例年大原沖では3月中旬以降に沖の水深60〜70メートル前後のポイントでマハタと大ヒラメが期待できるという。そのときがきたら、このタックルが真価を發揮するだろう。

「アレじゃないといけど」  
一進一退、やがて前方にアレの背ビレが2つ海面に現れた。アレとは10キロはありそうなシユモクザメだった。狙った魚ではなかったが、ロッドの持つパワーは十分に垣間見ることができた。

竿先が入り込むのを見て合わせを入れた。すると竿は大きく曲がり込み激しい抵抗を見た。「青物かもしれない。ヒラマサカブリならいいんだけど」と言いながらヤリトリ開始。すると一気に沖に払い出すように糸が引き出された。

化があった。  
「海底の起伏が激しいので、ために底を取り直さないと根掛かりします。海底の形状を確かめつつ素早く操作ができるのはいいですね。穂先はメタルトップとAGSを搭載しているので繊細なアタリも分かります。電動のデッドスロー（微速）巻き上げも効果がありますよ」  
竿先が入り込むのを見て合わせを入れた。すると竿は大きく曲がり込み激しい抵抗を見た。

★開始1投目に急襲してきたのは2キロ級のヒラメだった



GOUIN NEMONO MH-210 + SEABORG G200J

★強靱なバットパワーで浮かせる

操作性、感度、パワー  
三拍子そろったロッド!

★取材日は福田さんは型を見ることができなかったがロケハン時には良型を



福田豊起  
外房のマハタ&ヒラメに挑む

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING VOL.92

# マハタ・ヒラメ最前線

at 外房大原港出船

★マハタ釣りがさらに面白くなる



●外房では周年狙える人気ターゲットとして定着したマハタ。このほどマハタに加え大ヒラメも視野に入れたロッドが登場するという。今回は福田豊起さんがそんな最新ロッドの実力を披露するために外房大原港から出船した。

「外房のマハタや大ヒラメ狙いにマッチした竿が登場しました」と福田豊起さん。従来まではヒラメ専用ロッドや泳がせロッド、ゲームロッドなどで当地のマハタ釣りを楽しんで来たが、通い込んでいくうちにそれぞれの竿に足りない3つの要素に気が付いたという。そしてその3つを取り入れて絶妙なバランスで仕上げた竿が「ゴウイン ネモノ」だという。

「ヒラメ竿にはない操作性のよさ、泳がせロッドにはない感度のよさ、ゲームロッドにはないパワーを持った竿になっています。マハタ釣りをしているときに、「もっとこうだったらいいのに」と思ったことをすべて注入して仕上げました」

今回はそんなニューロッドの実力を披露するために、外房大原港の松栄丸から出船。取材した3月上旬はシケ続きで海上は荒れ気味。  
「連日の強風で沖のポイントに行けないかもしれません。浅場だと潮が濁って底荒れもあるのでマハタやヒラメにはかなり厳しいかもです」

船は本命ポイントよりも手前の水深35メートル前後でスタート。大型のマイワシを付けて素早く投入する。  
「いきなり食ったよー！」と着